



中野嘉之 「寒禽」



今井ロチン 「猫」

(会員)
秋山功
伊東總吉
今井敬子
薄井良昭
金子茂夫
佐々木征
佐藤裕幸
杉野和夫
鈴木正道
中井嘉文
野口勉
野原宏
福井豊
堀良慶

(敬称略・50音順)

NPO法人あーと・わの会 通称：「わの会」

第48回放談会



2017年1月29日(日) 13時～16時
於 東京・京橋区民会館 洋室3号室

第48回放談会

1. 日時 2017年1月29日(日) 13時~16時

2. 場所 東京・京橋区民会館 洋室3号室

3. 出席者(計14名 敬称略:50音順)

<会員> 秋山功 伊東總吉 今井敬子 薄井良昭 金子茂夫 佐々木征 佐藤裕幸
杉野和夫 鈴木正道 中井嘉文 野口勉 野原宏 福井豊 堀良慶

4. 司会進行:佐藤裕幸 写真・編集制作:野口勉

5. 放談会(発表順)

① 伊東總吉



佐藤暢男(1926年生)

「かいま見」 メソチント 24.5×36.0cm 制作年:1979年

朝日チャリティ美術展で、その銅版画の柔い質感に惹かれて求めたもの。
旧制鶴見工業学校卒業で「脱サラの芸術家」(元名古屋郵政局職員)といわれた。
(「版画芸術」14)

類似の作品に「いちま」(1980年)があるが、本作はその前年の作で浮世絵を添えてユーモアを秘めている。

② 中井嘉文

大貫松三（1906～1982年）
「粧い」 油彩・キャンバス
SM号 制作年：不詳



神奈川県愛甲郡生まれ。1925年東京美術学校西洋画科入学、和田英作に師事。
31年卒業、37年、38年文展特選、49年立軌会創立、64年退会、以後団体に
属さず個展等を発表の場とする。人物、静物を描いた作品が多い。

③ 今井敬子



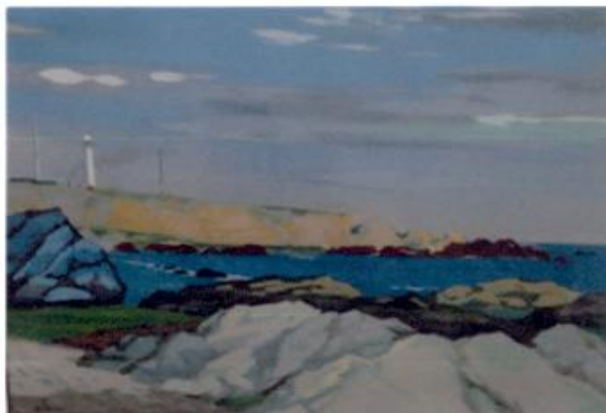
今井ロチン（1909～1994年） 「猫」 油彩・キャンバス F4号

父の作品をお持ちしました。
師：藤田嗣治から、今井ロチンの世界をつくれと言われた。

太平洋美術学校本科油絵科修了。1941年～49年藤田嗣治に師事。1970年二科
会会員。モチーフとして猫、バラ、人物を数多く描いた。日本芸術絵画大賞受賞、サロ
ン・ドートン又招待出品、二科展審査員も務め、晩年まで個展に意欲的であった。

<談>今井：中井先生が練馬アトリエ村について区史として残してくださいました。感謝の気持ちでいっ
ばいです。

④ 佐々木征



相澤光朗（1919～1998年）

「犬吠埼灯台を望む」 水彩・紙 28.3×37.9cm 制作：不詳（1987年頃？）

作者不詳であったが、配色のバランスの良さに心が動き購入した。その後、マットを交換した際、額縁店店主から発色が素晴らしいと絶賛された逸品です。

光朗は早くから主に商業デザイン分野で活躍し、毎日商業美術賞、朝日広告漫画賞等数々の受賞歴に輝いている。加えて水彩画に独特の画風を確立したとして、昭和59年度国際芸術文化賞を受賞している。また作品は宮内庁をはじめ宮家、寺院等に多く収蔵あり。

＜受賞歴＞昭和14年・第26回日本水彩画会展で日本水彩画賞。昭和40年・第51回光風会展で船岡賞。

＜所属団体＞日本水彩画会（昭和14年～57年同会理事で退会）、昭和57年碧濤会を主宰する。＜出品歴など＞日展に15回入選し日展水彩協委員、新制作展5回入選

⑤ 秋山功



山下大五郎（1908～1990年）

「椿」 油彩・キャンバス SM号

制作年：不詳

山下大五郎と云えば、安曇野を始め越後、出雲など日本海側の厳しい自然を叙情性豊かに描き、日本の原風景を追求した画家として広く知られているが、生まれは温暖な湘南の藤沢であることには驚かされる。この「椿」は、小品ながら作家の生き様がよく表れていて、気に入っている。華やかな薔薇のような花ではなく、厳しい寒さの中に凛として咲く一輪の椿の姿に、山下の志の高さをみるからだ。若き日の評価そのままに、既成のヒエラルキーの中で描き続けたならば、一時的な名声や社会的権威は得られたであろうが、それを良しとせず、自由な境地の中で己の信ずる道一筋に歩んだ。こうした生き方の中にこそ、観る人を魅了し、いつまでも心に遺る本物の作品を生み出し得た秘訣があるのであろう。

⑥ 鈴木正道



紙面の都合上10葉のうち3葉

二見彰一（1932年生）「Vom Meer（海から）」アクアチント・紙
銅版画集 10葉 12.0×12.0cm 制作年：1989年

1 海の音、2 浜辺にて、3 海へのひかり、4 海の生物、5 深海魚、6 海底のねむり、
7 北海帆走、8 海のヴァイオリン、9 ノーチラス、10 海の胎生

1989年作家57歳、最も油の乗り切った時期であり、意欲的な作品がこの前後に多い。
私の好きな作品に「サウンド・コンビネーション」がある。

1988年北ドイツのプレーマーハーフェンに滞在した二見氏は、北海の汚染に落胆した。
しかし幼い頃、海で遊んだことを連想。

「今まで実際に見、聴き、触れた各地の海の風景が私のイマジネーションをろかして生
まれてきた。」（二見氏）

作品「バルトークの部屋」（1970年）は、「続・わの会の眼」に掲載。

⑦ 杉野和夫



中野嘉之（1946年生）「寒禽」 日本画・紙本に彩色 F4号 22.0×27.0cm

京都に生まれ、現在は箱根にアトリエを構え多摩美術大学教授として若い世代へも大きな
影響力を持ってきた。豪快で自由な人柄が示す力強い作風が特徴であり、本作品もどこか
厳しい緊張感をかもし出しております。

1970年多摩美術大学大学院修了、1972年新制作協会春季展賞、1975年山種美術館賞展出品
（79、81、89、91年）、2006年第15回MOA岡田茂吉賞大賞、2016年多摩美術大学教授退
官、現在フリーで活躍。

⑧ 福井豊

漆原由次郎（木虫 1889～1953年）
木版刻摺
フランクィン（Frank Brangwyn 1867～1956年）
原画



「ディクスムイデの聖ニコラス教会（ベルギー・西フランデレン州）
多色摺り木版・紙 版寸36.5×28.5cm（紙寸45.0×34.0cm）制作：1915年頃・50部

1907年制作水彩グワッシュ原画に基づく多色摺り木版（1/2縮尺）。1918年9月、英美術雑誌「カラー」掲載。原画は旧松方コレクション1927年～8年十五銀行担保、個人蔵を経て2011年国立西洋美術館購入所蔵（画寸73.4×56.0cm）

⑨ 薄井良昭



岡野博（1949年生）「水色のバックの子供」 油彩・キャンバス F4号
制作年：不詳

広島県生まれ、1973年武蔵野美術大学卒業、1975年フランス国立装飾美術学校に学び、13年間をフランスでの制作活動で過ごす。
1986年帰国後、国内での個展多数。
千葉県市原市にて現在も制作活動中。

ネットオークションで入手した作品。

⑩ 佐藤裕幸



島村三七雄（1904～1978年）「サンミッシェルの橋」
油彩・キャンバス F5号（27×35cm） 制作：1929～1937年 滞欧作品

1974年 日動サロン 島村三七雄「若き日のパリ」展出品作
印象派の絵画からの影響を受けて描写した作品と思われる。
1945年独立美術協会会員、1957年新樹会会員、1967年日本芸術院賞受賞
1969年東京芸術大学教授

画面からは空気感がよく表現されている様に思う。

⑪ 野口 勉



笠松紫浪（1898～1991）
「白い猫」木版画 37×24cm



関野準一郎（1914～1988年）
「シャム猫」木版画 36×45cm

猫ブームにあやかってコレクションしたうちの2点。
笠松、関野ともに新版画界の巨匠。特別な説明も必要ないだろう。見事の一言！

国内各地で猫作品展が盛況だ。名が知れているところでは、家族でコレクターの「招き猫亭コレクション」がおもしろい。猫の愛嬌さ、怪しさ、神秘的な性格など多様な魅力が絵画を通じて感じられる。

⑫ 堀良慶

丸山妙子（1908～1989年）
「少女」 油彩・キャンバス F4号
制作：1966年



女流作家のコレクターでフォーヴ好きな私は、丸山妙子の作品に都度、惹きつけられてきました。何故なのでしょう。厚塗り、荒い筆致。絵の具を投げつけるような厚い塗りの絵肌は、色が重なり合いながらも混濁することなく、リズムカルなマチエールとして今なお強くメッセージを発し続けています。加えてこの少女がこよなく魅力的です。女性作家の持つ優しさが眩しいくらいです。飽きが来ない作品です。

何時頃、里見勝蔵に師事したのかはわからないが里見の影響を強く受けているようです。里見からはフォーヴの神髄を受け継いだ作家かもしれません。この作品を愛でていた持ち主に会ってみたいと思いました。

○見学会員：金子茂夫、野原宏

○放談会終了後、希望者会員8名で懇親会を実施しました。

* 作品記事は、各自が当日提出した紹介文を基に編集掲載しています。

発行：NPO法人あーと・わの会 通称「わの会」
発行日：平成28年10月吉日
編集：実行委員
佐藤裕幸（司会進行） 鈴木忠男（書記） 野口勉（写真・編集制作）
連絡先：事務局 〒277-0871 柏市若柴1-358 堀良慶
TEL 04-7134-8293 ryokeihori@yahoo.co.jp
発行部数：80部